

第38回甲府市地域自立支援協議会 全体会 議事録

日時：令和6年2月16日（金）13時30分～

場所：甲府市役所本庁舎4階 大会議室

〈出席者〉

全体会 大塚ゆかり会長

定例会 千野由貴子会長

鈴木茂友委員 渡辺花子委員 津金永二委員 岡田雅人委員 越水眞澄委員 土屋洋一委員

山岸 修委員 山本和弘委員 土橋誠委員

〈事務局〉

甲府市役所：望月福祉保健総室長 田中障がい福祉課長 岡課長補佐 雨宮補佐

原山係長 橘田補佐 望月主任

基幹相談支援センターりんく：深澤係長 保坂相談員 小林相談員 大柴相談員

地域生活支援拠点コーディネート事業らいぶ：市川コーディネーター

〈事業所〉

日中サービス支援型共同生活援助事業所 グループホーム彦星 高村管理者

【次第】

1 はじめのことば

2 全体会会長あいさつ

3 福祉保健部福祉保健総室長あいさつ

4 議事

（1）専門部会等の活動報告

①地域移行部会

②就労支援部会

③相違談支援部会

④児童部会、医療的ケア児（者）支援協議会

⑤権利擁護連絡会/課題整理機関

（2）甲府市障がい者福祉計画について

（3）地域生活支援拠点事業について

（4）日中サービス支援型指定共同生活援助事業所の評価について

（5）甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告

（6）その他

・県と地域の合同自立支援協議会の報告

【議事】

(1) 専門部会等の活動報告

定例会会長：(資料に基づいて説明)

①地域移行部会

高齢の障害者の地域生活をいかに支えていくかということをテーマにここ数年活動をしている。今年については、市内3地区の民生委員の会議への出席、昨年引き続きケアマネージャーと精神科病院のワーカー、相談支援専門員や保健所による、顔の見える連携交流会を開催した。あわせて、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場というところの役割も担っている。

②就労支援部会

就労支援のサービス提供事業所を対象にしたアンケートによる実態調査を行った。その中では、事業所それぞれが抱えている課題が見え隠れしている。

また、優先調達推進法に基づいて、市役所の担当課と話しをさせてもらった。合同販売会についても継続的に行っているものだが、食品系の売れ行きがとてもよかったという報告を受けている。

③相違談支援部会

相談支援事業所、相談支援専門員の確保に関する活動として、継続的に相談支援事業所未設置の事業所を訪問し、新設の勧奨等取り組みを行っており、今後も訪問を継続しながら、困りごと等へのサポートについても検討していきたい。その他、防災について、当事者、家族それから相談支援専門員自身が、意識を高めるためにチェックシートを作成した。

④児童部会、医療的ケア児（者）支援協議会

(児童部会一班)

通所事業所ガイドについて、QRコードを添付するなど、できるだけ簡便に利用できるように工夫し、内容をブラッシュアップするなかで、更新を行った。また、市内の親御さんとの意見交換会については、開催場所や方法等考えていきたい。

児童の分野の連携交流会について、課題を設定しながら検討していきたい。

(医療的ケア児)

災害に関して、個別避難計画を具体的に作成するにあたって、勉強会等参加しながら、研究を深めている。

子ども保育課からは、医療的ケア児が保育所に通う際の相談窓口の受け入れの流れについて話を伺った。

昨年度、医療的ケア児が退院した後のフォローアップについて、パンフレット等を作成したが、県の医療的ケアの部会と配布時期を合わせるとしていたが、県の動きが見えないため、現状そのままになっている。今後、どうしていくのか確認中である。

⑤権利擁護連絡会/課題整理機関

普及啓発活動として、L G B T Qの方と障害当事者の方との、シンポジウムを山梨学院短期大学において行った。

昨年の合同協議会で行ったワークショップを、相談支援連絡会と連携をして開催し、どんなことに気をつけて発信していくべきなのか、自分たちが聞いたつもりになっているのではないかといった、点検の場として活用をしていただいた。

また、福祉現場新人職員研修会を予定している。特に小規模の事業所では、専門的な知識についてレクチャーを受ける機会や、権利擁護、障害者の人権について、実際の場で学ぶことが難しい。そのような機会を持てれば良いと思い予定をしている。

委員：就労支援部会のアンケート結果に関して、就労系の障害福祉サービスから一般就労への移行者数が、障がい福祉計画の計画値に対してどのようになっているのか。

また意見として、法定雇用率が引き上げられているなか、障がい者の一般就労に繋げていくには、地域の社会資源がいかに機能していけるかが重要と思った。

議長：中小企業がとても多いので、障がいをお持ちの方を雇用したときに、それをサポートしていくような人材がなかなか置けないというのも大きな課題かと思う。首都圏に行くと専門の人がついて、そういう人たちが率先して色々なところと連携を取ったりもしており、細かに雇用した障害者に対してのサポートができる。その辺がなかなか山梨は難しいかなと思っている。

事務局：一般就労への移行者数ですが、障がい福祉計画の計画値25に対して実績値は17となっております。

委員：市役所の委員の出席率が悪いと思うが、自立支援協議会に対しての甲府市のスタンスが、優先順位からすればそんなものと外部委員は思ってしまうので、どうにかした方がよいのではと思う。

もう1つは、児童部会で保育所等利用申請の流れを配ったとありましたが、参考までに、実際に会議を開催したり、母子保健課と障害福祉課と情報共有したというケースが何件ぐらいあったのかわかれば、お聞かせいただければありがたいです。

事務局：今年度は今のところ2件ですが、細かなところも話し合ったりする中では、タイムリーにお互い情報共有をしながら進めている状況です。

議長：実際受けられる保育所は何件くらいあるのですか。

事務局：何件とお示しできませんが、保育課で10月の部会のときに説明をしていただいた内容では、保育所自体も運営面、人手不足が非常に大きいところで、医療的ケアが必要では

ないお子さんの受け入れさえも、なかなか難しい状況がある中で、保育課とすると、お母さんの話を聞きながら、調整を進めていく意向があるという話を聞いたところです。

議長：なかなか難しい状況だと思うが、可能な限り保育課と連携を取っていただいて、理解を保育所にも持っていただければと思うので、よろしくお願いします。

委員：障がいをお持ちの方たちの子供さんのこれからのことも、しっかりと地域で定められたら、良い障害福祉サービスになっていくのかなということも感じますので、ぜひ今後の課題として取り上げていただければと思いました。また、障がいをお持ちの方の避難所というところで、もう少し色々なところに周知していただくことも大事なかなというふうに思ったところです。

委員：福祉避難所があるということを、障がい者が知っているだけでも、すごく大きな安心になると思う。福祉避難所を広く周知することが必要ではないかなと、そんな感想を今の話を聞いて感じました。

議長：災害になると、必ずしも知っている人だけが対応するわけではないと思うので、まずは市役所の職員に、徹底して福祉避難所のシステムというか、知っていただけたら良いと思っています。

事務局：庁内関係課集まりまして、福祉避難所の共有をしたところですが、福祉保健部においては、福祉避難所の情報は共有されているという認識であります。

また、受け入れ可能人数等も内部では共有しておりますが、先ほど委員からお話がありましたように、災害のときに、受け入れられるべき方を受け入れできない事態を避けるために、広く周知はしていない情報になっております。

定例会会長：今回の能登半島地震のときに、自閉症のお子さんを抱えている家族が、うちの子は、避難所には逃げられないから、もうひたすら自宅とかなり疲弊した状態で自宅避難をされていて、行政若しくはご近所の方から繋がって、福祉避難所に避難したというような情報が結構早い段階であったと思う。肝心なのは福祉避難所の使い方はもちろんですが、そういう機能がきちんとあるということを知らせること、個別避難計画などを意識することだと思う。

（２）障がい者福祉計画について

事務局より、資料に沿って説明。（次期甲府市障がい者福祉計画について、進捗状況等）

議長：何かご質問等ありますか。

この１年後２年後というところでは、本当にこの目標に向かってきちんと取り組みが

されているのかどうか、評価をしていかなければならないので、皆さんには計画を毎年1回は最低見ていただきたいと思います。

（３）地域生活支援拠点事業について
らいぶより資料に沿って説明。

議長：ご質問等ありますか。

委員：つい先日、来年度の地域生活支援拠点に関して、国が随分力を入れているという発表があったが、それに対して具体的に甲府市として、どのように外部と連携していくというような話しをお聞かせいただければと思います。

事務局：拠点コーディネーターの配置による体制整備ということで、国の資料は今月の初めに出たばかりで、読み込めていないのですが、今後どういったことができるのかということについては、引き続き皆さんと協力しながら検討していきたいと思っています。

委員：私どももグループホームを運営しているが、今回の厚生労働省の素案について、運営する母体で話し合いだけではなくて、地域の住民も踏まえたり、当事者も参加する中でグループホームの活性化みたいなものが、きちんと整備されていくというのが今回の主眼かなと思っている。ぜひよろしくお願いします。

（４）日中サービス支援型指定共同生活援助事業所の評価について
グループホーム彦星担当者から、資料に沿って説明。

議長：ご質問等ありますか

委員：定期的に自宅に宿泊に戻るようなことはされているのでしょうか。

彦星：ご家族の都合があつたりするのですが、希望されている方は、月1回とか、基本的には1泊2日とか2泊3日で帰られる方もいらっしゃいます。

（５）甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告
りんくから、資料に沿って説明。

議長：ご質問、感想等ありますか。

今後ますます、国からも支援者支援とか、地域づくりというところで、基幹相談支援

センターに大きな役割を担っていただくことになっていくのかと思います。本当に全てにおいてとなってしまうのが、今の山梨県全体における基幹の課題だと思う。

(6) その他 ・ 県と地域の合同自立支援協議会の報告

定例会会長（県の委員として報告）より、資料に沿って報告。

議長：ご質問等ありますか。

委員：にも包括についてですが、精神障害者を地域移行すると、一番困ったことは受診をしなくなってしまう。治療中断になってしまう。最後には、自傷他害行為を起こして、保健所が出勤すると言うような事態になってしまうため、何とか地域で未受診者を受診援助するような体制というのは作れないものか。未受診者を何とか、受診援助するとか、或いは精神科が逆にアウトリーチするとか、少しそういうことも考えていかないと、なかなかにも包括も進まないということではないかと思う。

定例会会長：通院をされている方たちの通院中断について、まずは、そうならないような仕掛けというのを考えていきたいというのと併せて、親御さんがかなり太い柱になって支援をされていて、その親御さんが高齢になって、なかなか通院のサポートができなくなったりとか、もし自分自身に介護が必要になったり、お亡くなりになったりという中で、その受診という行動が積極的に取れなくなる、そういう高齢の障害のある方へのアプローチも検討していければ良いとは思っています。

委員：やはり病院と市と地域が連携して、受診中断者を早期発見して、受診勧奨をするような体制づくりが必要だと思いますので、またよろしくお願いします。

議長：以上をもちまして、本日の議題を終了させていただきます。

会議終了